

の 杜 犬

参道狛犬研究会ニュース



定価 100円

1998年1月19日

第5号

編集 阿由葉郁夫

山崎 衛

発行 日本参道狛犬研究会

例会報告

平成9年11月16日(日)

於豊島区立勤労福祉会館

一、円丈の狛犬講座

テーマは、文化・文政の狛犬大研究。天保で江戸狛犬は完成をみる。がその一歩前の段階である狛犬(江戸尾立)を豊富な写真とともに解説。

二、ゲストスピーチ

日本石工調査所・小松光衛さんにより「日本の石工(石屋)―その世界―」と題して、狛犬にもデザイン画がある、刻まれた石工の名前は必ずしも実際に彫った職人の名前とは限らない、浪速の狛犬のつまらない訳、奈良東大寺の重文狛犬への疑問……その石と石工の話は最初から最後まで驚きの連続。目から何枚もつるこが落ちたような気分。次回からも定期的にお話しいただきたい。

三、しん平のおしゃべりコーナー

時間切れのため問題提出のみ。映画失楽園に2対の狛犬が出て来ますが、その場所(神社)は何処でしょう?

四、今月の一枚

「あ・ん」の狛へびや一つの台座に乗った一対の狛犬等、今回も多彩な作



品が多数寄せられた。その中で今月の一等賞は一連のユークなジャワ島の狛犬(写真左)、準優勝は「あ・ん」の閻魔様に決定。

愛しの山内三次郎

鐸木 能光

この正月に、ようやく地元の神社を本格的に巡り始めた。うちの近所では溝ノ口、内藤慶雲という銘のある狛犬がかなり目立つ。あゆは編集長の調査でも、溝ノ口、内藤慶雲と登戸、吉沢耕石は圧倒的に多いとか。内藤慶雲は同年建立のものが多い。内藤慶雲は同年建立のものが多い。内藤慶雲は同年建立のものが多い。

「うまねずみ」

写真情報募集

村上美子・田中邦博

狛犬以外の神使に意外と面白いものが多いことは御存知の通り。ならば動物図鑑のように神使録を作ろうではないかと盛り上がったのが忘年会の席上。まずは十二支の順にと言ったことで、記念すべき第一回のお題は「子こ、狛ねずみ」特集です。狛ねずみにピンと来た方は写真・情報をお寄せ下さい。締切は次回の例会まで。興味神使録(仮題)の欄、乞う御期待。



乱筆狛犬探偵団

大いに盛り上がった忘年会も無事終了。忘年会なのに何とアルコル抜き。二次会！それも狛研2年目へ向けての熱意の現れ、そうです。もう、狛研も2年目に入る。事務局でまとめた一年間の記録を見ると、アツという間違ったのに中身の濃い一年であった事をつくづく実感する。今年も更に充実した年になるよう地元の狛犬に祈って来た。突然の指名で始めた「狛犬の杜」も5号を数え、年末には急遽予定外の号外まで出してしまい、こんなに順調に進むとは思っていません。今後ともより充実した内容にすべくガンバリます。そのためにも、もっともと皆様からのご意見・投稿をお待ちしています。隣町の神社(杉山神社・横浜市緑区三保町)が大改築工事に入った。昭和12年建立の江戸狛犬(石工・足立光一)の扱いを見守っている。新しい狛犬の奉納があるかどうか。この神社は横浜市で2社しかない私の見た範囲内で、茅葺き屋根の拝殿、それが無くなってしまうのは残念な気もするが、湯島天神でも拝殿前に狛犬を置きたい。どなたか状況をレポートして下さい。大雪の連続に手も足も出ない。バイクで回っている私には、雪と凍った道は大敵。今年に入って、まだ一度も神社巡りが出来ない。雪に埋もれた狛犬からの呼び声は聞こえるのだが……(阿)

『小松さんに送る反撃のかる - いジャブ!』三遊亭 円丈

これを裏証するためにひとつのテーマを設定します。それは小松氏の言う「ミカゲは箱根の山を越えなかつた」です。ではホントに江戸期のミカゲの石造物は東京にないのか?それが、小松氏への反撃のかる - いジャブ!。これを1月例会の円丈のテーマにお送りしたい。このテーマをフィールドワークによって検証!果たしてミカゲはあるのか?今回は調査データも公開!小松氏の言ったコトは真実なのか?それとも大* *なのか?ふつつふつつこれは見逃せない!乞う御期待……。

《おまけ》



狛犬紀行

江戸経済の一面を語る、富岡八幡宮狛犬

三宅稜威夫

深川にある富岡八幡宮は寛永時代創建とされる。境内には江戸狛犬をはじめとして多くの石造物がある。参道右手奥に氷昌稲荷、芭蕉を祀る花木神社などがある。何かい

にある狛犬の台座に、奉納宝曆十三年、江戸場売手中とあり久住善八ほか九名の銘があつた。気になつたので調べてみた。江戸は運河名、場は河岸(かし、船着場)、売手中は問屋を意味する。江戸時代、銚子方面から「干鰯」(ほしか)が大量に船運で運ばれた。この地に荷上された干鰯は鰯を乾燥したもので江戸近郊の野菜作りに使われた重要な肥料であつた。問屋たちは相対に繁栄したらしい。商売の守護神として氷昌稲荷を祀り、狛犬、鳥居、灯籠などを奉納した。氷昌稲荷は和倉町にあつたが明治二十九年富岡八幡宮の現在地に移転され合祀された。

狛犬はその背後に多くの歴史を秘めている。氷昌稲荷前のあのヒヤリとした感覚は、身勝手な現代人に向けての狛犬の怒りかもしれない。